

飼料問題懇談会の概要

1 日 時 平成14年3月7日(木)13時から16時まで

2 場 所 明治記念館

3 出席者 委員13名中7名委員が出席(代理3名)

4 議事概要

(1) 阿部委員を座長に選出

(2) 飼料をめぐる情勢等について説明した後、自由討議を行った。主な意見は以下のとおり。

- ・ 今後とも飼料自給率の向上のため、自給飼料の増産を進めることは重要である。
- ・ 飼料関係の各対策が飼料全体の動向の中で、どの程度のインパクトを持つものであるかを検証していくことが必要。
- ・ BSE(牛海綿状脳症)の発生を背景に、飼料の安全性に対する消費者の関心が高まっており、飼料や飼養環境のトレーサビリティが必要。
- ・ 生産サイドにおいて、生産があつての消費の視点から、消費があつての生産の視点への転換が重要であり、消費者へのアプローチが必要。
- ・ 食品残さ等の未利用有機資源の活用は、その安全性を確保していかないと進んで行かない。
- ・ 飼料穀物の備蓄は、突発的な事故等に対応するための保険であり、重要。
- ・ BSEの発生を背景として、自給飼料の意義を見直すことは大事だが、飼料供給は輸入配合飼料に依存せざるを得ないことに変わりはなく、その安定供給には備蓄と価格高騰時の補てん制度の二本柱が重要である。
- ・ 粗飼料多給型畜産を推進することにより、収益・費用にどう影響を与えるかを生産者に説明していかねばならない。
- ・ 飼料会社も、飼料供給者としての責任を守り、消費者に近づいて理解を得る努力も必要。
- ・ 稲発酵粗飼料は、耕畜連携を進める上で重要な役割を果たすだけでなく、飼料自給率の向上、水田の保全、堆肥の循環等にとっても重要であり、定着が必要。
- ・ 飼料作物を耕作放棄地等の有効利用のための作物といった従たるものとして見るのではなく、もっと積極的な位置付けとすべきではないか。
- ・ 安全、安心な畜産物の追求において、リスクはできるだけ排除して欲しいが、他方、そのためのコストがどの位かかるのかについての情報提供をお願いしたい。

問い合わせ先
農林水産省生産局畜産部飼料課
総務班 矢花、田辺、安松
tel 03-3502-8111(内線 3998、4002)
直通 03-3501-3778

飼料問題懇談会議事次第

平成14年3月7日(木)
13:00～16:00

明治記念館 東館1階「千歳の間」

- 1 開 会
- 2 部 長 挨 拶
- 3 座 長 選 出
- 4 議 事
(1)資 料 説 明
(2)討 議
- 5 閉 会

飼料問題懇談会委員名簿

氏名	役職
青沼 明德	全国酪農業協同組合連合会 代表理事専務
東 宗一	飼料輸出入協議会 理事長
阿部 亮	日本大学生物資源科学部 教授
犬伏 由利子	消費科学連合会 副会長
岩田 三代	株式会社日本経済新聞社 生活情報部長
川島 政喜	協同組合日本飼料工業会 会長
生源寺 眞一	東京大学大学院農学生命科学研究科 教授
須田 洵	社団法人配合飼料供給安定機構 理事長
高木 勇樹	株式会社農林中金総合研究所 理事長
内藤 廣信	社団法人中央畜産会 常務理事
中村 祐三	全国農業協同組合中央会 常務理事
松田 延儀	全国畜産課長会 会長
三村 浩昭	全国農業協同組合連合会 常務理事

氏名は、アイウエオ順。